

# イギリス初等地理教科書における地誌単元の内容構成 —“Oxford International Primary Geography”の分析—

由井義通・阪上弘彬\*・横川知司\*\*・潘意涵\*\*・陶子\*\*\*・原田歩\*\*\*\*・劉曉一\*\*\*\*・  
沈彥馨\*\*\*\*・清水優生\*\*\*\*・近沢菜々子\*\*\*\*・中村光希\*\*\*\*・王莹\*\*\*\*・  
木村海斗\*\*\*\*・首藤慧真\*\*\*\*・村上正龍\*\*\*\*・服部美紀\*\*\*\*

(2022年12月5日受理)

## Content Analysis of Regional Geography in the Elementary Textbook “Oxford International Primary Geography”

Yoshimichi Yui, Hiroaki Sakaue, Satoshi Yokogawa, Yihan Pan, Zi Tao, Ayumu Harada, Xiaoyi Liu, Yuqing Shen, Yuki Shimizu, Nanako Chikazawa, Mitsuki Nakamura, Ying Wangi, Kaito Kimura, Eishin Shuto, Masatatsu Murakami and Miki Hattori

**Abstract:** The purpose of this research is to examine how the UK develops qualities and abilities such as knowledge, thinking ability, and geographical skills that correspond to globalization, based on the content structure of the geography unit in the British primary geography textbook. In order to elucidate, through analysis of "case studies" that are characteristic of geography education in the United Kingdom, by clarifying the specific knowledge and concepts, geographic skills and their structure. As a result of examining geography units in British elementary geography textbooks, learning aimed at forming geographical concepts through case studies, as seen in the activities of each grade, rather than learning all the regions of the world lots of activity. In addition, emphasis is placed on nurturing geographic skills, which is the use of maps, and this is seen continuously from the third grade, indicating that the development of geographic skills using maps is being pursued through each grade.

**Key words :** geographical education, elementary geographical textbooks, activities, the National curriculum of UK

### 1. イギリス・ナショナルカリキュラムにおける 初等地理の概要

イギリス(イングランド)では, Department for Education (DfE) の定めるナショナル・カリキュラム (National Curriculum, NC; DfE, 2013a) によって学校教育の方向性が示され, 2022年11月における地理科に関するカリキュラムは, 2013年に発行されたもの (DfE, 2013; 以下2014年版NC地理とする) が初等・中等教育ともに最新である。

2014年版NC地理では初等・中等教育ともに

大きな変化がみられた。例えば, 由井ほか(2016)で報告したように, これまでのカリキュラムが重要な概念とプロセスを重視したものであったのに対し, 2014年版NC地理は知識をベースとしたものとへと変化した (Lambert and Hopkin, 2014; ブルックス, 2016)。

また本稿の主題である地誌の内容に関わる記述においても大きな変化が認められる。表1は初等教育における1991年版から2014年版NC地理にかけての地誌の内容の記述を整理したものである。形式的な側面から見れば, 地誌の内容に関わ

\* 千葉大学, \*\* 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期, \*\*\* 元広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程後期, \*\*\*\* 広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程後期, \*\*\*\*\* 広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期

表1 イギリス初等教育のNC地理における地誌的内容の変遷

	1991年版	1995年版	2000年版	2014年版
KS1	・学習する場所：3つ 身近なロカリティ 英国内のロカリティ 英国外のロカリティ	・学習する場所：2つ 学校周辺のロカリティ 英国内または英国外のロカリティ	・学習する場所：2つ 学校周辺のロカリティ 英国内または英国外のロカリティ	・位置に関する知識 世界七大陸と五海洋 英国の4つの国とその首都 英国の周りの海 ・場所に関する知識 英国内の小地域 対照的な非EU国の小地域
KS2	・学習する場所：5つ 身近なロカリティ  英国内のロカリティ  発展途上国のロカリティ EU諸国のロカリティ 郷土（リージョン規模）	・学習する場所：3つ 学校周辺のやや広いロカリティ（学区程度） 英国内のあるロカリティ  発展途上国のロカリティ	・学習する場所：2つ 英国内のロカリティ  発展途上国のロカリティ	・位置に関する知識 ヨーロッパ（ロシアを含む）、南北アメリカ 英国を構成する国々とその首都 ・場所に関する知識 英国の地域 ヨーロッパの国における地域 南北アメリカ内の地域 緯度経度、赤道、北半球・南半球、北回帰線・南回帰線、北極圏と南極圏、グリニッジ子午線と時差帯
カリキュラムの特徴	場所、テーマ、スキルに焦点化した内容。	KSごとに特徴のあるものに。スキル、場所、テーマの3つの領域から記述される。	地理的探究とスキル、場所の知識と理解、パターンとプロセス、環境変化と持続可能な開発の4つの領域から記述される。	知識主導（knowledge-led）のカリキュラム。KSごとに、位置に関する知識、場所に関する知識、人文地理と自然地理、地理的スキルとフィールドワーク、の視点から記述される。場所の焦点はKSごとに特徴があるが、自然と人文地理においていくつかが重複している。
内容	包括的で、幅を強調。地理に関する詳細で非常に規範的。	世界をサンプリングするカリキュラムへ。幅と深さの間にある明確な兼ね合い。	深さを強調した、世界のサンプリング。	包括的で、プラットフォームまたはフレームワークとしての安定した「必須知識のコア」に焦点化。幅と深さのバランスは、教師（および教科書執筆者）が決定。
地理の分野あるいはアプローチ	場所と地球科学が強調。空間よりも位置が優勢。人間-環境のアプローチ。福祉の流派は限定的。	場所と地球科学の流派から、人間-環境の関心に重点を移す。空間と福祉の流派が復活。	流派間のバランスの試み：場所と地球科学はさらに減少。人間-環境は維持され、空間と福祉の流派がより強化。	場所、位置、地球科学が強調。人-環境は存在するが限定的。福祉の流派もあるが弱い。

出典：志村（2003：表1）およびDfE（2007）、Lambert and Hopkin（2014：Table1）より作成

る学習対象地域の記述が、1991年版から2000年版では各KS1、KS2ともに、学習する場所の数が明確に示されていたが、2014年版では、具体的な地域・国名はかかげられているものの、学習する場所に関する明確な言及はなされていない。また2014年版NC地理のKS1、KS2ともに学習対象地域の示し方に変化がみられ、例えばKS1では「英国以外のロカリティ」だったものが「対照的な非EU国の小地域」、KS2では「発展途上国のロカリティ」が、「ヨーロッパ（ロシアを含む）、南北アメリカ」のように、具体的な地域・国家名が提示されるようになった。

志村（2003）による1991年版から2000年版NC地理を取り上げ、比較分析によると、改訂により地誌的内容の量が減じ、地誌的編成原理は初版でこそ強かったものの、改訂のたびにその役割を減じていったことが明らかにされた。最新版の2014年版NC地理においても、前回に引き続き、地誌的編成原理は弱い。この要因については由井ほか（2016, p.42）でも言及したが、地理における事例学習の方法が、固有的地誌の理解を目指すサンプル・スタディから普遍的概念の理解を目標とするケーススタディへと移行したことが大きい。またカリキュラムの背景にある地理の分野やアプ

表2 『Oxford International Primary Geography』1～6の内容構成

学年	章	地誌単元	節	学年	章	地誌単元	節	
1	1 私の学校		私の教室	4	1 環境をより良くする		私たちの生活環境	
			方向				ゴミとボイ捨て	
			計画を立てよう				ゴミのリサイクル	
			私の学校				石油と環境	
			学校の地図				エネルギーと環境	
	2 地域		校庭		世界は騒がしい			
			あなたはどこに住んでいる？		環境をより良くする			
			私の家		初期の村			
			家ってどんなところ？		● パラッドサイト村			
			世界中の家		● 村が育つまで			
	3 いろいろな場所に行ってみよう		私たちの使う建物		● インド			
			地域にある仕事		● インドの田舎暮らし			
			変化する地域		● インドの生活			
			私の使う道路		● 平野部の生活			
			旅行しよう		● インドの漁村の暮らし			
世界地図 用語集		学校まで行ってみよう	● インドの都市での生活					
		私の世界	4 余暇をどう過ごすか					
		休日の過ごし方	余暇の過ごし方					
		休日の天気	余暇と土地利用					
		様々な風景	地震と火山					
			地震					
			火山					
			世界地図					
			用語集					
2	1 より広い世界		地球	5	1 水		私たちは水が必要だ	
			大陸				どこにでもある水	
			国名				水の供給	
			海洋と海				砂漠	
			私の生活環境				砂漠での生活	
	2 島にある家		家族でできるリサイクル		熱帯雨林			
			● 島		干ばつ			
			● 島国バレーン		安全な水			
			● 国		水は誰のもの？			
			● 島の交通手段		交通機関の形態			
	3 海辺に行こう		海辺		道路交通			
			海辺の都市・町・村		交通問題			
			世界の海辺		交通問題の解決			
			海の食べ物		新しい道路は必要？			
			世界を理解するために		海岸の特徴			
4 世界について学ぶ方法		私たちの視野を広げる	海の動き					
		地球儀、地図、地図帳	波の動き					
		● 気候	海水浴場					
		● 世界のスーパーマーケット	● 海岸集落の種類					
		● 中国	● 海岸の保養地					
5 世界へのパスポート		● 上海での生活	● アクアの海岸都市					
		世界地図	● ジェベル・アリのコンテナ港					
		用語集	● 東洋の玄関口、シンガポール					
			● ヨーロッパへの玄関口、ロッテルダム					
			風を利用する					
3	1 村での生活		● 地図	6	2 輸送		風向と風の強さ	
			● 道案内				台風	
			● 村の様子				竜巻	
			● ダナ村				世界地図	
			● 農場と食べ物				用語集	
	2 世界の天気		● 休日の過ごし方		1 河川			● 水はどこから来るの？
			● 暑いところ、寒いところ					● かはの始まりはどこ？
			● スイスを見てみよう					● 海岸まで下る
			● カイロでの生活					● 川と人々
			私の生活環境					● ナイル川
	3 窓からの眺め		土地利用		● アマゾン川			
			人と環境		● マーレイ川			
			季節の移り変わり		● 汚染された川			
			連絡を取り合う		● 山、丘、地図			
			電子メール(Eメール)		● 山はどのようにできる？			
4 世界とつながる		日常の移動	● 山と天気					
		ニュースの中の天気	● ヒマラヤ山脈					
		天気の変化	● アンデス山脈					
		地域の変化	● 山と観光					
		交通ニュース	変化する海岸線					
5 ニュースで話題になっていること		世界地図	3 海岸			砂丘と人々		
		用語集				海岸に立つ建物		
						海岸を利用する		
						海岸をせき止める		
						海岸を脅かすもの		
4	1 村での生活		● 都市の発展	6	4 都市		● ケニア・ナイロビ	
			● ケニア・ナイロビ				● ブラジル・リオデジャネイロ	
			● 日本・東京				食べ物と人々	
			食料と飢饉				飢饉が人々に与える影響	
			自然がもたらす飢饉				人間がもたらす飢饉	
	2 世界の天気		カイロでの生活		世界地図			
			私の生活環境		用語集			
			土地利用					
			人と環境					
			季節の移り変わり					
	3 窓からの眺め		連絡を取り合う					
			電子メール(Eメール)					
			日常の移動					
			ニュースの中の天気					
			天気の変化					
4 世界とつながる		電子メール(Eメール)						
		日常の移動						
		ニュースの中の天気						
		天気の変化						
		地域の変化						
5 ニュースで話題になっていること		交通ニュース						
		世界地図						
		用語集						

以下の教科書より作成

- 『Oxford International Primary Geography 1』
- 『Oxford International Primary Geography 2』
- 『Oxford International Primary Geography 3』
- 『Oxford International Primary Geography 4』
- 『Oxford International Primary Geography 5』
- 『Oxford International Primary Geography 6』

ローチもまた地誌的内容の設定に影響を与えていると考えられる。表1に示すように、どの地理の分野アプローチが採用あるいは優勢となるかは時代ごとに大きく異なっている。

## 2. 研究目的と分析手法

### (1) 研究目的

グローバル化が急速に進行する中で、世界への関心が高まるとともにグローバル化に対応した人材育成が急務となっているにもかかわらず、日本の初等教育の社会科においては、世界の諸地域に関する地誌の学習が設定されていない。日本の子どもたちは中学校社会科地理的分野で初めて世界の多様な諸地域について学習するのである。一方、小学校において外国語の学習が始まり、少なくとも英語圏の世界への関心が高まる中、語学学習だけでグローバル化対応の資質・能力の育成を図るのは、大きな欠陥を抱えている。つまり、語学学習の背景として、会話の情景や地域の特徴を理解する必要があり、またコミュニケーションをとるには対話する相手の文化的背景や国際情勢などの理解が必要である。外国語の学習は異文化理解や国際理解との組み合わせによって学習することによってより効果的な語学学習となるにもかかわらず、語学学習だけでグローバル人材の育成を図るのは適切ではないと考える。

本研究の目的は、イギリスの初等地理教科書における地誌単元の内容構成から、グローバル化に対応した知識や思考力、地理的スキルなどの資質・能力についてイギリスではどのように育成を図っているのかを解明するために、イギリスの地理教育に特徴的な「ケーススタディ」の翻訳・分析を通し、そこで育成が目指されている具体的な知識や概念、地理的技能とその構造を明らかにすることである。

### (2) 分析手法

本研究では、Oxford University Press 刊行の『Oxford International Primary Geography』Grade1 から Grade6 を分析対象とした。イギリスの初等地理教科書は数社の刊行があるが、この教科書を選定したのは、各単元で設定されているアクティビティが多く、内容構成が多様であったからである。

分析の手順としては、地誌関連の単元をピックアップして全訳し、単元の内容構成と各単元で設定されているアクティビティの内容分析を行った。

アクティビティの内容分析では、阪上(2016)による分類をもとにアクティビティの内容について類型化を試みた。

## 3. 初等地理教科書の内容構成

『Oxford International Primary Geography』Grade1 から Grade6 を通してみた学習内容構成は、表2に示すようになっていく。この内容構成からわかることは、以下のとおりである。

1 学年では、施設がどのように使われているかなど、身近な生活圏の様子について学習するところから始まっているが、地誌的内容は設定されていない。2 学年からは、海や島などの地域教材としてのテーマをめぐる、複数の国の様子がケーススタディとして取り上げられている。とりわけ4 学年では、インドを事例としてやや掘り下げた地誌的内容が組み込まれている。わが国の初等社会と比較して2 学年段階からケーススタディとして世界諸地域の事例が取り上げられているのは世界への関心を高める意味でも注目される。海や島はイギリスにも存在しているにもかかわらず、イギリス国内の事例ではなく、諸外国の海や島を取り上げているのは、日本の地理学習の対象が身近な地域である市町村から都道府県レベル、日本国内へと同心円の拡大を示しているのに対してイギリスでは地域スケールについては同心円の拡大はみられず、取り扱う地域事例についても系統だてられていない。

第3 学年の地誌関係の単元は村の生活がテーマとなり、世界諸地域の村の生活を教材として村落での生活の様子から、気候や土地利用などの多様な世界を学ぶように構成されている。

学習活動は自身の文化との比較や内容を学習したうえで意見・根拠の提示で構成されており、学習したことを基に子ども自身が判断や考えを表明し異文化を自分事として理解することに重きを置いた活動となっている。「スイスを見よう」の小単元は、スイスの気候とそれを生かした土地利用に関する記述・説明が中心となり、「カイロの生活」の小単元では、人々の生活を気候や自然環境の視点から記述されている。

高学年の5・6 学年になると、一つの国、あるいは一つの川や港などを取り上げて、気候、人々のくらし、産業の立地など、複合的な視点で多面的に地域を学習するような構成となっている。しかしながら、6 学年を通して単元構成を分析した結果、教科書で取り扱う地域事例とそれらの地域

スケールの順序性の意図については明確な論理性がなく、また学習する地理的概念の理解に適したケーススタディーとして取り上げた理由も明確ではない。

#### 4. 世界地誌単元におけるアクティビティ

イギリスの地理教科書について検討した。イギリスの地理教科書は、日本とは異なり教科書検定制度が設けられていないが、NCに対応したものが製作されてきた。イギリスの地理教科書の特徴は、学習内容に関する本文や資料と並んで見開きに設定されたアクティビティが設定されていることである。このアクティビティには、学習目標や内容に応じて、質の異なる様々な学習活動が示されている。また、NCに対応する地理教科書であれば、単元レベルにおいても知識の獲得だけにはとどまらず市民的資質の育成までを視野に入れた内容構成、アクティビティを設定していると考えられる（由井ほか、2021）。さらに地誌学習について、志村（2003）によると、イギリスの地理学習においては体系的な地誌学習が存在しない代わりに、いくつかの地域のケーススタディーが行われており、選択された国や地域における地理的事象を通して、地理的思考やスキルの育成が図られている。

ケーススタディーとして地誌的内容の構成となっている第2学年以上の各学年の単元について分析を行ったが、紙面の関係で地誌関連の単元が多い第3～第6学年の地誌関連の単元で設定されたアクティビティを分析した結果を報告する。

##### (1) 第3学年

地誌的内容は「世界の気象」と「村の生活」の単元に含まれており、2.3「スイスを見よう」のアクティビティは既習事項について地図やインターネット等で探したり調べる学習活動が多数を占め、最後の設問である内陸国と海に面している国の分類のみ既習事項を他の状況に応用する分析と比較の学習活動となっている。これらは、地名とその位置についての学習に重きを置いた活動である。2.4「カイロの生活」のアクティビティはすべての設問で既習事項について地図を見て答えるものとなっており、地名やその位置の学習に重きが置かれている。

3学年のアクティビティは子どもが自分の意見やその根拠を示す活動が中心である一方、学習した用語や地名、国・地域の位置を確認する活動が中心である。分析した単元では村落の生活という事例学習を通して、基本的な用語等に関する知識

の獲得よりもそこから子どもが何かを学び取り、主体的に異文化を理解することに重点が置かれている。それに続いて気候に関する学習が配置され、基本的な用語や国・地域の名前や位置に関する知識の獲得が前提としてあるため、ケーススタディにおいても用語や地名、その位置などの知識の獲得に重点が置かれている。

##### (3) 第4学年

第4学年の教科書におけるアクティビティでは地理科という独立した教科でありながら、小学校4年生段階では地理的な概念の形成よりも、地理的な技能の習熟と論理的な思考力・表現力の育成に重点が置かれた記述が特徴的である。これはむしろ教科横断型の授業による資質・能力の育成が目指されているといえる。

NCには次のような記述がある。

「教師は、生徒の話言葉、読み、書き、語彙を、すべての教科の授業に不可欠なものとして伸ばすべきである。英語は、それ自身が教科であると同時に、教育の媒体でもある。生徒にとって、英語を理解することは、すべてのカリキュラムにアクセスすることにつながる。英語が流暢に話せることは、すべての教科で成功するために不可欠な基礎となる。」

「生徒たちは、標準的な英語を使って、はっきりと話し、自信を持って考えを伝えることを学ぶべきである。理由をつけて考えを正当化すること、理解を確かめるために質問すること、語彙を増やし知識を深めること、交渉すること、他人の考えを評価しそれを基にすること、効果的なコミュニケーションのために適切な音域を選択することを学習する必要がある。また、構造化された説明や解説をすること、推測や仮説を立てたりアイデアを探ったりすることで理解を深めることを教える。そうすることで、自分の考えを明確にし、書くための考えを整理することができるようになる。」

これらの記述から、当該学年において地理的概念の形成よりもむしろ論理的な思考力・表現力の育成が重視されていることに納得するとともに、本授業の今後の発表において、学年を重ねるにつれ、育成が目指される地理的概念の量や質がどのように変化していくのか注目に値する。

また、日本の社会科教科書と比較すると、日本の社会科教科書の方がイギリスより身に付けさせたい知識や概念が構造化された構成になっていることも明らかとなった。一方で、教科書の記述通

表3 第5学年における地誌関連単元におけるアクティビティの分析結果

題目	アクティビティ	要求領域*	KS2との対応	
海岸沿いの保養地	1 a 地図や地図帳でベニドルムを探してみましょう。あなたの家からどれくらい離れていますか？また、あなたの家からどの方向にありますか？	スキル	①地図の活用	
	b あなたの家から一番近い海辺のリゾートはどこですか？そのリゾートは何キロ離れていて、どの方向にありますか？	スキル	⑦方位	
	2 a ベニドルムの気温が一年を通じてどのように変化するのか、インターネットで調べてみてください。	スキル	⑤気候帯	
	b その結果をグラフで表してください。	スキル	⑧グラフの活用	
	c 最も気温の高い月はどれですか？ d ベニドルムの月別の日照時間をグラフで表してください。 e 最も日照時間が長いのはどの月ですか？	スキル スキル スキル スキル		
3 保養地で過ごした休暇について説明してください。保養地はどのようなところでしたか？そこで何をしましたか？保養地に行ったことがない人は、どこかの保養地を選んで、どんな所か想像してみてください。	思考力・表現力			
海岸沿いの都市アカバ	1 a 地図帳やインターネットでアカバを探しましょう。	スキル	①地図の活用	
	b 自宅からアカバまでの距離はいくらですか？	スキル		
	c アカバはどの方向にありますか？	スキル	⑦方位	
	d 自宅や学校からアカバまで、どのように行ったらよいでしょうか？	スキル		
	2 a 海辺のリゾートにしかない建物にはどんなものがあるでしょうか？海岸を守る建物、海岸の安全を守る人が使う建物、海岸やビーチを利用する人を楽しませるための建物について考えてみましょう。 b 海辺の特別な建物は、どこにありそうですか？	思考力 思考力	②土地活用のパターンを挙げる	
3 a 友達に行ったことのあるホリデーリゾートを聞いてみましょう。 b その結果を棒グラフにしましょう。 c どのリゾートに一番多くいったことがありますか？ d それはあなたの住む地域に最も近いリゾートですか？	スキル スキル 思考力	⑧グラフの活用		
ジュベル・アリのコンテナ港	1 a ドバイとジュベル・アリ港が描かれた地図を見てください。 b なぜジュベル・アリは港として良い位置にあるのでしょうか？ c 他にジュベル・アリ港のように同じアラビア湾の海岸線沿いに位置する港はありますか？	スキル 思考力 思考力	⑥地図を用いた特徴の記述 ①地図の活用	
	2 地図や地図帳を見て、ドバイを探しましょう。あなたの家からドバイは何キロ離れていますか？また、どの方向にありますか？	スキル	①地図の活用 ⑦方位	
	3 港ではどんな仕事が行われているか調べてみましょう。 a 沿岸警備隊 b 入国審査官 c 税関職員	スキル		
	東洋の玄関口、シンガポール	1 シンガポールが港に適している理由を4つ書きましょう。	思考力	⑤貿易活動を含む経済活動
		2 近隣の島々とシンガポールを結ぶフェリーがあります。 a 旅行ガイド、インターネット、地図帳などを使って、世界中のフェリーの港をできるだけたくさん探しましょう。	スキル	①地図の活用
b 各フェリーの行き先を調べましょう。		スキル	①地図の活用	
c これらの航路を世界地図の上に印をつけましょう。		スキル	①地図の活用	
d あなたが探した中で最も長いフェリーの航路は何ですか？		スキル		
ヨーロッパの玄関口、ロッテルダム	1 地図帳や参考書、インターネットを使って以下の項目を調べましょう。 a オランダと国境を接する2つの国の名前 b オランダにある3つの大きな都市の名前 c オランダの海に注ぐ2つの川の名前 d それらが流れ込む海の名前 e オランダの国旗はどのようなものか、それを絵に描いてください。 f オランダで話されている言語 g オランダの人口	スキル	②地誌の特徴	
	2 オランダに関係する絵や物を集めましょう。コイン、切手、写真、チーズパックのラベル、植木鉢、旅行券などがあります。	スキル		

\*要求領域は阪上ほか（2016）による分類

りに授業を進めれば、創意工夫のない画一的な授業に終始してしまうことも懸念され、他の事象に転移可能な概念形成をいかに図ることができるかが、教師の裁量と力量に任されている。

#### (4) 第5学年

表3に示すように、地誌関連の単元のアクティビティでは、地図や地図帳を活用して探す／調べるもの、インターネット等で調べるもの、図やグラフの作成と読み取り、という地理的スキルの育成が大部分であった。

地図や地図帳を活用するものは地図を用いた地理的技能の習得を目指していることが考えられる。しかし日本の小学生用地図帳を見ると、外国の地名や地形に関して詳細には載っておらず、他国のことに関して知るためにはインターネット等を用いることが必須である。イギリスの地図帳がどういった事柄を掲載しているかは不明であるが、あまり日本では想定されていないアクティビティである。また、図やグラフを作成し読み取る活動は読解力だけではなく、表現力の育成も兼ね備えてあると考えられる。特にベニドルムのアクティビティにおけるグラフ作成は本文中の序盤に記載のある気候と関連があり、夏に温暖少雨な気候というヨーロッパの保養地の要素を習得させたいという意図が推測される。しかし日本の小学校社会科の教科書では、図やグラフを作る活動はほとんど見られない。このアクティビティではグラフの外枠や体裁等を作成するところから始め、値を記入した後にグラフの読解まで要求してある。こういった部分は小学生に対してはとても高度なアクティビティであると言える。

第5学年のアクティビティでは保養地や貿易港の特徴という地理的な概念の形成を育成している部分が見られることが読み取れた。また、地図の活用能力の育成も第3学年から連続して見られ、長期間かけて地図やグラフを用いた地理的技能の育成を図っていることが分かる。ただし、本文とは関係ないアクティビティも見られた。

#### (5) 第6学年

設定されたアクティビティは教科書本文の記述内容と関係したものとそうではないものから構成されている。1.5「ナイル川」の小単元では、いずれも教科書記述と直接的な関係があるアクティビティが設定され、教科書内容の整理と定着に重点が置かれている。1.6「アマゾン川」では教科書記

述だけでなく、個別の調べ学習が必要な活動となっており、ケーススタディで学んだ内容を発展させている。1.7「マーレー川」では教科書の記述（地図含む）と直接的な関係がある活動と教科書記述と直接関係しないものの、調べ学習を行って考える学習活動になっている。

教科書記述と関係しない活動については、概念として一般化したり他の地域との比較や置き換えを実施したりする活動は少なく、イラストを描かせたり教科書以外のツールを用いて扱った地域を深く知る活動が主であり、本来のケーススタディの目的である「選択された国や地域における地理的事象を通して」の「地理的思考やスキルの育成」が十分に図られていない。

各アクティビティを分析すると、1.5「ナイル川」の小単元では、2は教科書記述から社会的事象の理由や要因について答える活動（思考力育成）となっている。1.6「アマゾン川」の小単元では、1社会的事象の理由を漫画やクイズなどの多様な形式で説明させる活動であり、3は立体模型として表現させる活動となっている。1.7「マーレー川」について2-b以外は地図を見て事項を挙げる活動や模型で表現する活動といった地理的スキルに該当する活動であり、2-bについては「どの大洋に流れるか」などの地図読みのスキルと思考力育成の学習活動が設定されている。

2.4「ヒマラヤ山脈」の小単元では、「挙げる→調べる→表現する」という段階的に取り組む学習活動が設定され、実際に生活する人の視点に立ち価値判断を行う活動もある。このような子どもの視点を変えるアクティビティによって、広い視野に立って地理的事象を考える力を身に付けさせたいという意図を読み取ることができる。2.5「アンデス山脈」の小単元では、1はメリット・デメリットという価値判断について根拠を基に行う活動である。2と3についてはファクトファイルによる分類と社会的事象の説明である。4.3「ブラジルのリオデジャネイロ」の小単元ではほぼすべての活動を通して知識・理解や地理的スキルに関連したアクティビティが設定され、教師の力量と教育観に左右される活動となっている。4.4「日本の東京」の小単元では価値判断がアクティビティに設定されている。

『Oxford International Primary Geography 6』のケーススタディでは各単元のアクティビティに地理的スキルの育成と思考力・判断力の育成に関するものが多く、教科書内容の理解、定着や

説明力の向上が重視されている。一方で、明確に判断力の育成と関連しているアクティビティは少ない。多くのアクティビティは教科書内に掲載されている地図中の地名や河川名を読み取らせたり、特徴を答えさせるオーソドックスな活動が設定されている。一方、「ヒマラヤ山脈」, 「アンデス」, 「日本の東京」の小単元では地図の記載がなく、本文と写真および子ども自身の調べ学習をベースにしたアクティビティが設定されている。

## 5. まとめ

イギリスの初等地理教科書における地誌単元を検討した結果、世界の諸地域を万遍なく学習するのではなく、各学年のアクティビティにみられるように地理的な概念の形成を目指した学習活動が多い。また、地図の活用という地理的スキルの育成も第3学年から連続して見られ、長期間かけて地図を用いた地理的技能の育成を図っていることがわかる。グラフを作成し読み取るアクティビティもいくつか見られたが、高度な技能や表現力が要求されていることから、小学生にとって少し難解な学習活動も設定されている。

全体を通して、イギリス初等地理教科書における地誌学習では、世界の諸地域の知識理解に比重を置かず、サンプルの事例を通して地理的事象の概念の理解を図り、地図やグラフを読み取る地理的スキルの育成を目指した内容構成となっている。

## 文献

阪上弘彬ほか(2016)：小学校における地理的内容の展開とその特徴—イギリス初等地理テキストブック Collins Primary Geography の分析から—, 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第二部, 第65号, pp.45-52

阪上弘彬(2018)：『ドイツ地理教育改革とESDの展開』古今書院。

志村 喬(2003)：「ナショナル・カリキュラム地理」改訂にみる初等・中等地理カリキュラム編成原理—地誌的学習内容の変更を中心に—, 上越教育大学研究紀要, 23-1, 225-243。

ブルックス クレア著, 志村 喬訳(2016)：「今現在」のイギリスにおいて地理を教える。新地理, 64(1), pp.22-28。

由井義通・村田 翔・阪上弘彬(2016)：イギリス初等地理テキストブックにおける環境地理学習の特質, 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第

二部, 第65号, pp.37-44。

由井義通・阪上弘彬・村田翔・横川知司・潘意涵・陶子・岩佐佳哉・藤村大智・頼富収吾・原田歩・藤岡柚衣・劉曉一・耿静文・沈或馨・奥村尚・玉井慎也・真崎将弥・渡邊竜平・鄧竹珂・安藤瑛啓・村田一朗・王莹(2021)：イギリス中等地理教科書 Oxford University Press 『Geog. 4th edition』における地誌単元の内容分析. 学校教育実践学研究, 27, pp.39-47。

DfE (2013a): National curriculum in England: framework for key stages 1 to 4.

<https://www.gov.uk/government/publications/national-curriculum-in-england-framework-for-key-stages-1-to-4/the-national-curriculum-in-england-framework-for-key-stages-1-to-4>(最終閲覧日 2022年5月12日)

DfE (2013b): Geography programmes of study: Key stages 1 and 2 national curriculum in England.

[https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/239044/PRI-MARY\\_national\\_curriculum\\_-\\_Geography.pdf](https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/239044/PRI-MARY_national_curriculum_-_Geography.pdf) (最終閲覧日：2022年11月28日)

Lambert, D and Hopkin, J. (2014): A possibilist analysis of the geography national curriculum in England. International Research in Geographical and Environmental Education, 23 (1), pp.64-78.

Terry Jennings(2015) : 『Oxford International Primary Geography 1』 Oxford University Press.

Terry Jennings(2015) : 『Oxford International Primary Geography 2』 Oxford University Press.

Terry Jennings(2015) : 『Oxford International Primary Geography 3』 Oxford University Press.

Terry Jennings(2015) : 『Oxford International Primary Geography 4』 Oxford University Press.

Terry Jennings(2015) : 『Oxford International Primary Geography 5』 Oxford University Press.

Terry Jennings(2015) : 『Oxford International Primary Geography 6』 Oxford University Press.